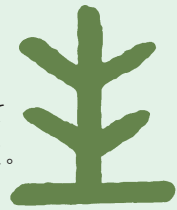


盛岡地区保護司会会報（盛岡市・滝沢市・雫石町）

も り お か

第24号

人はみな、
生かされて
生きてゆく。

更生保護シンボルマーク



発行趣旨

この会報は、盛岡地区保護司会（河南分区、河北分区、厨川分区、盛南分区、西部分区、保護司数147名）の活動を紹介する会報・広報紙です。盛岡地区保護司会は広域で盛岡市、滝沢市、雫石町を担当しています。

■発行年月日
令和6年12月15日
■発行
盛岡地区保護司会
会長 花松 行雄
■印刷
河北印刷株式会社

秋としてはうつつすらと汗ばむほどの好天に恵まれ、今年で50回目の節目を迎える岩手県更生保護研究大会が、令和6年10月31日に盛岡市民文化ホール「マリオス」において開催されました。大会テーマを「更生保護活動の意義とともに確認し力強い推進を」と掲げ、県内の更生保護団体及び協力者、約700名が集まりました。



第50回岩手県更生保護研究大会 開会行事

第50回岩手県更生保護研究大会（盛岡地区大会）開催

式典の冒頭、名誉大会会長挨拶には達増拓也岩手県知事も駆けつけ、ご登壇いただきました。また、顕彰では例年より多く25名の方が法務大臣表彰を受賞し、盛岡地区の三澤弘高保護司が代表して謝辞を述べられました。

午後に入り、清興には盛岡市の伝統さんがが館内に太鼓の音を響かせ、迫力ある演舞を披露した後、「SWOT分析による課題の発見と少年犯罪の研究」と題した盛岡地区の研究発表を行いました。

続く藤井茂氏による講演は、岩手の偉人「新渡戸稲造」が人助けに尽くした生涯を、いくつものエピソードから教えてくださるものでした。関係団体との連携を深め、明るい社会の実現に向けた学びのある大会となりました。

講演



「慈悲深き国際人 新渡戸稲造」

北海道出獄人保護会会長
一般社団法人新渡戸基金

理事長

藤井 茂氏

令和6年を振り返って

盛岡地区保護司会会長 花松 行雄



令和6年
が明け、新
年度が始
まって、早
くも師走を

迎える時期となりました。今年も私たち更生保護分野では多くの出来事がありました。

第74回社明運動、第47回盛岡さんさ踊りパレード、そして第50回岩手県更生保護研究大会が開催され、盛会裡に終えることができたことは、開催地保護司会として昨年からの準備にあたられたサポートセンター、各専門部、事務局の皆様、そして各団体のご協力と当日の任務にあたられた方々に心からご慰労を申し上げます。

5月には、滋賀県大津市で保護司が殺害されるという事件がありました。これまでも社会面を飾る様々な事案が報道されていることはご承知のとおりですが、特にこの事件では、近年になく報道各社が更生保護の分野に注目し、保護司をめぐる関連報道が数多くありました。

金原明善の出獄人保護事業が今日の保護司制度や更生保護施

設誕生のルーツとなったことや法務省が実施した全国保護司の聞き取り調査結果、有識者検討会の報告案、保護司への直接取材等々。

このような中、昨年5月から始まっていた保護司制度に関わる有識者検討会「持続可能な保護司制度の確立に向けた検討会」は、保護司の任用、職務や保護観察官との協働態勢、保護司の処遇、使命等を主に検討されてきましたが、この事件をきっかけに「保護司の安全確保」についての検討課題が加わりました。

9月には、令和6年度東北管内地方別保護司代表者協議会が開催され、これらの検討課題について報告案の説明があり、この事件を契機とした面接場所の確保を含む保護司の安全確保に関する意見交換が行われたところです。

このように本年もいろいろなことがありましたが、私たちは、変わらずその任務に邁進していくことが肝要かと存じます。

何卒よろしくお願い申し上げます。(今年1年の感謝を込めて)

祭で繋ぐ

盛岡保護観察所所長 本間 美佳子



チャグ
チャグ馬コ、
さんさ踊り、
雫石よしや
れ祭り、秋

まつりなど盛岡付近では季節を通じてお祭りが開催されており、盛岡での生活初心者の私は、毎回楽しませていただいております。特に、「社会を明るくする運動」の一環として毎年実施しているさんさパレードに提灯持ちとして参加させていただき大変光栄に思っております。皆さんのさんさ踊りにかける熱い思いをしっかりと受け止めました。

過疎化などで伝統的な地域行事であったお祭りなどが縮小されたり、中止となることも多い中、継続させたり、時代に合ったイベントとして実施したりしていくことは、地域のちからがなくてはできないことです。

お祭りは、人々の思いや願いに触れ、生きる喜びを分かち合い、地域社会と繋がるところ、その営みはたくさんの人を引き寄せ知られる場となります。さんさパレードを通して更生保護の心を語り継ぎ、今後更に知恵

を集め新しきことを生み出せるきっかけになることを期待しています。

更生保護の世界でのお祭りと言えば、更生保護研究大会ですが、第50回記念大会を、盛岡地区保護司会・更生保護女性の会・BBS会等の皆様のお陰で無事に開催できましたことに心から感謝申し上げます。

また、盛岡市・滝沢市・雫石町には、様々な形でご支援ご協力をいただき、改めて御礼申し上げます。

更生保護は、今年、未曾有の事件に遭遇しました。今後、各方面から検証されることと思います。安心して安全に更生保護活動が実施できるよう、皆様もご意見ご要望等を当庁にお寄せ願います。

忘れてはいけないことがある
教訓を生かし、二度と同じ悲
劇繰り返さないために

いま私たちにできることをともに





研究発表に臨むプロジェクトチームの皆さん

第50回岩手県更生保護研究大会（盛岡地区大会） 研究発表プロジェクトチーム報告

過日行われました第50回岩手県更生保護研究大会にて発表した取組みについて、あらためてご報告いたします。

このプロジェクトチームは、双方向で意見交換するため、少人数のゼミナール形式で行いました。三団体の連携事業として保護司・更女・BBSからメンバーを選定し、2月下旬には第1回目のプロジェクト会議を開催しています。

そこから月2回程度、18時30分からサポセンに集まって会議を行い、その間もメールやSNS等で情報交換を行いました。

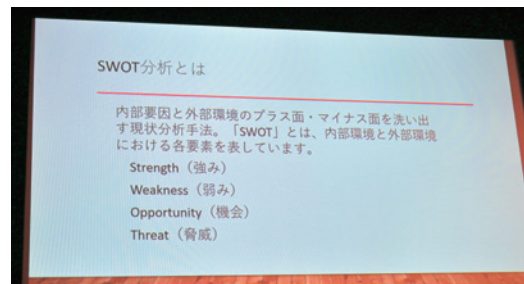
まず、各団体の活動や現状を交換し、SWOT分析を行うのに約3か月。いつも身近に活動している団体でも、まだまだ理解不足を実感しました。続いて少年犯罪をテーマとした研究に約3か月、最後に報告書編纂・発表準備作業となります。

当日の発表は一連の取組みを駆け足で説明したため、研究内容について多くは触れておりません。当日のスライド資料及び研究報告書は、地区事務局からデータをお渡しできますのでゆっくりご覧ください。

また、使用した「犯罪白書」は地区から各分区に蔵書されますので、こちらもお役立てください。



東北更生保護委員会委員長による講評



SWOT分析についてわかりやすく説明

令和6年度 盛岡地区保護司会役員

監事	監事	監事	副会長	副会長	副会長	会長
吉田和久	佐々木健	近藤雅博	川崎壽博	北田和栄	阿部信一	後藤百合子
						花松行雄



役員については、別表のとおりです。
定例研修会に続き、総会、懇親会が開催され、会員及び関係機関・団体等のご来賓を交えて交流が深められました。

5月18日（土）エスポワールいわてにおいて盛岡地区総会が開催されました。
令和5年度事業報告並びに会計報告の承認に続き、令和6年度の事業計画並びに予算案などの提案質疑応答、承認がなされました。
地区保護司会ホームページの立ち上げについて、熱心な意見交換がされました。

地区保護司会総会



厨川分区

社会を明るくする運動

厨川分区での社明運動は、毎年厨川中学校、土淵中学校、城西中学校、及び北陵中学校4校の生徒さん達と『社会を明るくする運動』の啓発活動を行っております。本年は、6月8日(土)チャグチャグ馬コパレードの日、7月13日(土)イオン前路店、8月1日(木)盛岡駅頭滝の広場、厨川駅頭で開催いたしました。厨中生11名、土淵中生5名、城西中生11名、北陵中生12名に参加して頂きました。

4校ともチラシ、ティッシュ配布を積極的に行ってくださいました。

『社明運動』は、まだまだ社会的に浸透しているとは思えません。これからも一つ一つ運動を積み重ねていき、文字通り社会を明るくしていきたいと思っています。



6月8日 青山地区活動センターにて



河北分区社明地区集会

河北分区

7年ぶりの山岸・米内地区での 社会を明るくする運動『地区集会』

河北分区で学区ごとに開催している『地区集会』は、7月15日、中央公民館で行われ、盛岡保護観察所をはじめ来賓の皆様、保護司、民生・児童委員、町内会や老人クラブの地域関係者など57人が参加しました。開会行事では、昨年度の社明作文コンテスト入賞生徒による作文の朗読も行われました。続く講演会では、盛岡保護観察所の森内潤統括保護観察官から「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ―薬物をめぐって―」と題して講演をいただき、地域の方にも薬物依存への取組や保護司の活動を理解していただく機会となりました。

河南分区

杜明 河南中学校集会

7月、盛岡市立河南中学校において、全校生徒約370名が集まるなか「社会を明るくする運動中学校集会」が行われました。講演に先立ち、区内3つの中学校校長に対し、後藤分区長より総理大臣メッセージが直接手渡されました。

続いて、太田の園地域生活支援員の鈴木勝良さんをお招きし、「とびらを叩け、道は君の目の前にある！」と題した講演となりました。

幼いときに交通事故で両脚を切断した鈴木さんは、時折車いすから降りて学生たちとその姿を堂々と見せながら、力強くお話ししていました。進学・就職のたびに思うようにいかない挫折と、人の理解が自分を救ってくれた経験やパラグライダーへの挑戦。特に、脚がなくなっても一緒に遊べるよう特別ルールを考えて野球に誘ってくれた友人とのエピソードは、胸打たれるものがありました。



杜明 河南中学校集会

盛南分区

杜明運動への取り組みについて

当分区が、杜明運動で最も大切にしていくのが、作文コンテストです。例年、作文の応募依頼を、区内の市立小中学校（小学校13校、中学校6校）全校に直接訪問して行っています。学校ごとに担当を決め、杜明のリーフレットやポスターを持参し、学校の迷惑にならない程度に、校長先生などに運動の趣旨を丁寧に説明します。その結果、今年は小学校7校、309作品、中学校5校235作品の応募がありました。

また、今年は、学校訪問時に出勤授業の依頼があり、本宮小学校では6年生に対し菊地陽子保護司が、また、太田東小学校でも6年生に対し宮田晃保護司が、「保護司の役割」や「社会を明るくする運動」について授業を行い、活動への理解を深めてもらいました。

そのほか、杜明強調月間の7月には、岩手飯岡駅駅頭での広報活動や横断幕、のぼり旗の設置などを行いました。



7月12日 岩手飯岡駅での広報活動

西部分区

西部分区2地区での杜明活動

西部分区は滝沢市、雫石町の区域で活動しています。今回は7月と8月に実施した2地区での活動を紹介いたします。

●「岩手山開き式」での杜明活動

7月1日に滝沢市の馬返し登山口で開催された山開き式に合わせ、生憎の雨模様の中でしたが、のぼり旗を設置すると共に、登山者や式参列者に啓発物品を配布して杜明運動をPRしました。

●「雫石よしやれ祭り」での杜明活動

8月11日、雫石町の夏のイベントである雫石よしやれ祭りのパレードに保護司会としてプラカードと横断幕を掲げて参加しました。また、沢山の沿道の参加者に啓発物品を配布して杜明運動をPRしました。



盛岡地区

担当保護観察官
新任4人の紹介

盛南分区担当

主任保護観察官 工藤 由紀子



8月の「さんさ踊り」に参加させていただき、ありがとうございます。

初めて保護司の皆様と「さんさ踊り」に参加したのは、保護観察官1年生であった平成3年でした。7月の半ばに東京での研修から戻ったら、既に参加することとなっており、盛岡城跡公園で何度か猛特訓を受けた記憶があります。白短パンにひまわりTシャツ、それに法被を着るというユニフォームで、踊りは現在の福呼踊りよりも複雑な踊りだったように記憶しております。

あれから驚くほどの年数が経ち、いろいろなことが変わりました。その中で変わらぬものは、誰もが安心安全に暮らせる地域社会づくりに取り組む保護司をはじめとする更生保護ボランティアの皆様の誠実な熱意です。皆様方の熱意に負けぬよう、残りわずかの期間ですが勤めて参りたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

西部分区担当

主任保護観察官 廣田 政彦



今年の春に、青森保護観察所から異動し、現在、西部分区を担当させていただいております廣田と申します。

盛岡地区保護司の皆様におかれましては、日頃より、刑務所出所者等の社会復帰に御尽力いただいておりますことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

今年の夏は、社会を明るくする運動の一環として、盛岡地区保護司会をはじめ、更生保護関係団体等のみなさまと共に、4年振りに、さんさ踊りパレードに参加させていただきました。パレード参加にあたっては、酷暑の中、松園小学校や公民館で汗だくになり、時には意識が遠のきながら、みなさんと踊りの練習に励んだ日が、ついこの間のように感じます。これからも、可能な限り保護司のみならず活動と共にして、盛岡の更生保護事業の益々の発展に微力ながらも取り組んで参りますのでよろしく申し上げます。

河南分区担当

保護観察官 佐藤 風太



この春より、河南分区を担当しております。

日頃、更生保護活動に御尽力いただき大変ありがとうございます。

近年は、事件減少の一方で、精神の病気や生活困難など、対応の難しいケースが増えており、盛岡地区においても例外ではないと感じます。

我々の行う対人支援は、支援者自身が心身健康でなければ務まらない側面があります。その上で、一人で抱え込まない、横のつながりで乗り切るといった考え方が大変重要だと思っています。保護司複数担当や主任官との連携はもちろん、保護司会活動や定例研修で

横のつながりを作ること、困難や悩みを一人で抱え込むことを防ぎ、また複数の目が入ること対象者の新たな一面が明らかとなり、結果として改善更生に近づくこともあります。

微力ながら皆様のお力になれるよう精進して参りますので、引き続き御指導御鞭撻のほど、よろしく申し上げます。

河北分区担当

保護観察官 村上 孝一



令和6年4月から処遇部門の保護観察官として河北分区担当官を務めております。

私は一関市の出身で、昭和56年4月、盛岡保護観察所に採用となり、その後、秋田、青森、山形の保護観察所を転々とし、令和5年3月に当庁を定年退職。同年4月から再任用職員として引き続き勤務しております。昨年度は企画調整課で被害者担当官を務めておりました。本年度は、河北分区内の保護観察事件等のほか、社明等広報活動等を担当しておりますが、盛岡駅広報活動、作文コンテスト、盛岡さんさ踊りパレード、ライトアップ等、盛岡地区保護司会の積極的な活動に対し感謝申し上げます。

保護観察所の業務実施体制の整備に基づき、地区担当官は、「地域まるごと担当」として、これまで以上に地域のことを知り、地域のネットワークを構築することが求められていますので、保護司の皆様には、引き続き関係機関との顔つなぎ等において御支援方よろしく申し上げます。



先輩保護司に導かれ今がある

河北分区保護司 熊谷 春夫



保護司拝命を受け、10年経ちましたが、その間に担当した対象者は現在継続中を含めて3人です。採用通知を貰い保護観察所での初任者研修を受け、いざ独り立ちとなった時は人生で一度も味わったことのないような不安に襲われて、「最初はどんな罪を犯した人の担当を任されるのか」と不安で眠れない日もありました。

保護司拝命のきっかけは、定年で辞された同じ分区の上田敬三先生でした。先生とは盛岡東署少年警察ボランティア協会で共に活動をしていた時、先生から「私と一緒に保護司をやってみないか」と誘われました。私は保護司の活動内容を聞き、「即お引受けすることではできません」と丁重にお断り申し上げましたが、酒席の中でのことでもあり、その日は話半ばでお開きとなりました。数日後、先生より電話があり、「私が手続きをして採用がほぼ決まった」と言われ、直ぐ先生に、私

は保護司としてやっていく自信がないので断って貰いたいと懇願しましたが、先生は、「分からないことがあったら相談に乗るからやってみる」と言ってくれました。

分区の一員となり、初めて参加した歓迎会、そして2次会までお誘いいただき、たくさん先輩の先生方より優しい言葉をかけていただき、私の心もこの先生方とならやってみたいと思うようになっていました。

現在は、河北分区の組織部員として分区内の交番と保護観察所にふれあい花壇を届けています。そして、盛岡地区組織部として「社会を明るくする運動実施委員会」の団体名で更女、松園太鼓クラブ、BBS会、保護観察所、保護司会他の協力を得て盛岡さんさ踊りへの参加をしております。

このような活動に参加できるのもたくさんの先生方に恵まれ、そして支えがあつてのことと思います。私をこの組織に導いてくださった上田敬三先生に感謝です。

新米保護司

盛南分区保護司 小笠原 一也



退職して、「前科者」の映画とドラマを「プライムビデオ」で観ました。更生保護活動に興味があることを同級生の保護司に話したところ、勧めもあり、令和4年9月に保護司となった次第です。

各研修会等を受講していたところ、令和5年4月に保護観察所から「生活環境調整担当

通知書」が届きました。対象者は近隣の刑務所に収容されていました。「結構早く担当が決まったな！」みたいな感じでした。その後、「環境調整中の者の身上関係連絡書」が届き、収容施設が別の刑務所へ変更された旨の連絡でした。

同年5月、近所の保護司さんと2人で引受人宅へ出向き、初面接です。想像していたより話がスムーズに進み、終わった後の安堵感は今でも忘れられません。2回目を令和5年11月そして3回目を令和6年5月にそれぞれ面接して「生活環境調整報告書」を作成し、担当の主任官へ提出したところです。

令和6年7月には「仮釈放等についての通知書」が届き、内容は「釈放の日を令和6年7月31日」でした。追って、「保護観察担当通知書」には期間が示されていました。

仮釈放の時期は、交通指導隊として「盛岡さんさ踊り」4日間と「盛岡火花火の祭典」を対応しなければならず多忙な時期です。しかもお盆の準備もあります。お盆後の9月は、地区の「多賀神社」責任役員なので祭典対応です。そのあとすぐ、「盛岡山車」運行の交通整理に4日間対応と続きます。

そんな中でもなんとか、8月と9月の対象者との面接(月2回)を実施し「保護観察経過報告書」作成(保護司専用HP、H@ (はあと))を利用)提出しました。

稲刈りも終わり10月からは、落ち着いて対象者に寄り添えるかなと思います。また、福祉事務所のケースワーカー等にも相談する予定です。

盛岡サポートセンターだより



盛岡サポートセンターは、今年で12年目を迎えます。サポートセンターの目的として、地域に根付いた更生保護活動の拠点施設の役目を果たすため関係団体協力のもと保護司各位の集う場として環境を整えているところで、令和2年から5年度までは新型コロナウイルス感染症防止のため、活動が抑制されてきた感がありますが、5類に移行されたことから、当サポートセンターの目的とされている業務を果たすべく関係各位の活用が種々図られたところです。

令和6年度上期における地区保護司会社明運動の一部を紹介いたします。

1 第50回岩手県更生保護研究大会盛岡地区大会開催に係る県保連への協力

5年毎の節目開催に地区保護司会の協力開催場所、清興、研究発表、講演及び運営に関するスタッフ配置等の協力

2 社会を明るくする運動、第47回さんさ踊りパレード参加

今年は盛岡地区保護司会を含めて8団体174人の参加があり、コロナ以前と同様或いはそれ以上の参加による社明活動でした。



3 第74回社明運動岩手県作文コンテスト

応募作品（盛岡市・滝沢市・雫石町小・中学校）49校1、898作品の応募がありました。

4 盛岡市の夜を幸福のイエローにライトアップ
(1) 東北電力鉄塔のライトアップ

岩手県推進委員会並びに盛岡地区保護司会共催



《協力事業主体》
東北電力ネット
トワーク(株)岩手支店

(2) 開運橋のライトアップ
盛岡地区保護司会主催

《協力事業主体》
盛岡市
(1)と(2)の点灯期間



令和6年7月上旬から中旬

今年の7月に大津市で起こった事件、及び以前から検討されていた有識者会議の提言により保護司活動の環境が変わりつつあるものと思料され、ある意味更生保護が見直される節目にきている感が否めません。当センターとしても保護司各位及び更生保護団体に対しての様々な行事、会議並びに活動について、これまで以上に活用していただければと考えているところです。

(亀ヶ森 力)

事務局会計担当から

盛岡地区保護司会事務局で、令和5年度から会計を担当させていただいております。

保護司の委嘱を受けてから、分区保護司会の事務局運営に関わる事もなく、地区保護司会事務局の仕事させていただく機会を与えていただきました。

全てが初めての事でしたが、地区保護司会の運営、関係機関や団体と連携しながら、地域で更生保護活動を行う拠点としてのサポートセンターの果たす役割を理解するほど、業務量の多さに驚きました。

そのような中で、会長はじめ、事務局長、各分区の事務長の方々のご協力をいただいて業務を進められることに感謝しております。これからも、皆様の役に立つサポートセンターとしての役目を果たせるよう、努力していきたいと思っております。

どうぞよろしく願います。
(大志田佳子)



編集後記

本号は、岩手県更生保護研究大会を中心に編集いたしました。多くの方から原稿や写真の提供をいただき、心から感謝申し上げます。

様々な出来事や変化の大きな1年が終わろうとしています。心静かに新たな年を迎えたいものです。皆様のご健勝、ご多幸を祈念します。

「広報部」上總 隼、山口道明、沼田 昭
松村優子、大谷冬太